

CRAFT PERSON IN TAKAOKA



未来を開く
作り手たち
vol.1



自分が金属とどう関わっていきけるか、
高岡で試していきたい。

上田 剛 Tsuyoshi Ueda 〈金工作家〉

奈良県出身。金沢美術工芸大学で鑄金を学ぶ。さらに、鑄金の知識・技術を深めたいと東京藝術大学大学院に進学。卒業後、高岡市の銅器着色業「(有)モメンタムファクトリー・Orii」に入社。2017年に独立。自宅に工房を構え、作品を制作している。

「初めて見た見た鑄金は、非現実的な光景でした」

大学に進学して、金属が溶けている光景を見て、鑄金に魅せられたという上田さん。大学院で研究を深め、その後高岡に移住し、着色の仕事に携わる。

「金属がいろいろなものに触れて色や表情がでてくる。それがおもしろいですね」

上田さんの作品に、モチーフはない。「プリミティブな感情を形にして残していきたい」と語る上田さんにとって、高岡は「鑄物ができるまち」。高岡市デザイン・工芸センターの鑄造場は、一般の人も使用できる。

さらに、伝統工芸産業希少技術継承事業の対象者となり、焼型鑄造を金工作家の中村喜久雄さんから学んでいる。銅合金の見たことのない造形を求めて、上田さんの目は、より高い世界を見つめている。



この日は、高周波炉で銅合金を溶解。金属の状態をチェックする。



原型は工房で制作し、型づくりや鑄造を高岡市デザイン・工芸センターで行う。



上田さんの作品「nature morte」(花器)

※上田さんの工房開設には、高岡市がクリエイターの自立支援・活動支援として行っている「次世代クリエイター工房開設支援事業」が活用された。